

体育哲学専門領域 2026年度 第1回定例研究会のご案内

坂本拓弥（筑波大学）・野上玲子（江戸川大学）

日 時 : 2026年6月13日(土) 14:15開始

開催形態 : **【対面】** と **【オンライン(zoom)】** によるハイブリッド形式

【対面】

会場：日本体育大学 東京・世田谷キャンパス **1301 教室 (3階)**

東京都世田谷区深沢 7-1-1

注意事項：対面会場では、当日、Wi-Fiのゲストアカウントを発行します。eduroamも利用可能です。

【オンライン】

接続方式：会員 ML にてご案内しております。

5月22日(金)送信の「**【体育哲学専門領域】** 第1回定例研究会開催について」をご確認ください。

注意事項：

ご自身のお名前は「氏名(所属)」で表示してください。こちらで参加者を確認しますので、**氏名はフルネームでの表示**をお願いいたします。また、発表の録音や録画、配布資料の無断転載等をご遠慮ください。その他、発表の妨げとなる事態が生じた場合、ホストが画面や音声を制御することがあります。なお、会員以外が閲覧を希望する場合は、会員から研究担当にご連絡ください。

【プログラム】

14:15 代表挨拶 深澤浩洋（筑波大学）

14:20 研究発表① 浅田風太（東海大学大学院）

体育の教育的意義の模索：ローティの偶然性概念を手がかりに

[概要] 本研究は、ローティの偶然性概念を手がかりとして、体育の教育的意義を模索するものである。ここでは、体育を技能習得や体力向上にとどまらず、予測不可能な出来事や他者との関わりの中、経験の意味が生成・変容する教育的営みとして捉える。さらに、ローティが示す偶然性概念を手がかりとしながら、自己創造の可能性がいかにか開かれるのかを考察し、体育の教育的意義を捉えていく。

(休憩)

15：10 研究発表② 神野周太郎（大阪電気通信大学）

体育において主体はいつ立ち上がるのか：

デューイの習慣論からみた〈主体性〉の生成

〔概要〕本発表は、体育において重視される〈主体性〉を、学習者にあらかじめ備わっている能力や態度といったものではなく、経験のなかで立ち上がるものとして捉え直すことを目的とする。デューイの習慣論と経験論を手がかりに、主体は既存の習慣が破れ、行為の再編が求められる局面で生成するものとして論じる。これにより、体育を既成の主体性を発揮させる場ではなく、主体が生成する経験の場として再定位する視座を提示する。

(休憩)

16：00 研究発表③ 高橋浩二（上越教育大学）

学校体育における「運動の特性」の検討：

「運動それ自体の特性」への発展可能性を探る

〔概要〕本発表では、学校体育で用いられている「運動の特性」について検討し、その特性が「運動それ自体の特性」へ発展する可能性を探る。すでに、久保田ら（2018）は「学びの地図～運動編～」を構想し、「運動それ自体の特性」に着目する必要性を指摘している。本発表では、特に、運動が立ち現れる瞬間に学習者の身体的自己がいかに変容し得るかに着目し、運動の特性が常に身体の能作（Leistung）によって生成され続けるものであることを示したい。

16：40 副代表挨拶 関根正美（日本体育大学）

17：30 情報交換会

【問い合わせ先：研究担当】

坂本拓弥 sakamoto.takuya.ga@u.tsukuba.ac.jp

野上玲子 rnogami@edogawa-u.ac.jp